

## ワクチン接種についての説明・同意書

ワクチン接種に関連した副作用について、今までは口頭でご説明していましたが、インフォームド・コンセントをさらに推進するために、書面によってご説明することになりました。ワクチン接種の安全性そのものが低下したわけではありませんので、どうぞ下記の内容をお読みの上、ワクチンを接種する・しないのご判断をお願いいたします。

### 混合ワクチン接種による合併症と副作用

アレルギー反応	混合ワクチンを接種してから48時間以内に起こることが多く、ふつう顔が丸く腫れたり、身体に発疹ができたりします。このほか、かゆみを感じたり、嘔吐が起こることもあります。 【対処】すぐに動物病院を受診してください。
アナフィラキシーショック	アレルギーのうちでもっとも重い症状で、急速に血圧が低下して呼吸困難や嘔吐・失神などが起こることがあります。最悪の場合、死に至ることがあります。 【対処】すぐに動物病院を受診してください。
食欲や元気の低下・発熱	混合ワクチンは、身体の免疫系に働きかけます。そのため、一時的に発熱が起こったり、食欲や元気が低下することがあります。 【対処】接種した翌々日になっても回復しない場合は受診してください。
注射した場所の炎症	混合ワクチンを接種した場所に、炎症が起こって痛みをもたらすことがあります。数週間たってから、肉芽腫といわれるしこりが発生することもあります。 【対処】痛みが強い場合や、数週間後にしこりができた場合は受診してください。
注射した場所の癌化【猫のみ】	混合ワクチンを接種した場所に、数ヶ月～数年経過してから線維肉腫という悪性腫瘍が発生することがあります。これは猫だけの問題です。

いずれの場合も、発生率は0.5%～0.001%程度とされていますが、副作用が発生する・しないの予測はできません。また、小型犬は大型犬よりもアレルギー反応が起きやすい傾向があり、中でもミニチュアダックスフントはアレルギー反応を起こしやすい犬種とされています。

### 混合ワクチン接種の同意書

豊平動物病院 院長 北村龍司 殿

私は上記の説明を理解し、副作用や合併症の危険性についても納得したうえで、混合ワクチンの接種を行うことを選択します。

年月日： 平成 年 月 日  
飼主住所： \_\_\_\_\_  
飼主氏名： \_\_\_\_\_ 印  
ペットの名前： \_\_\_\_\_